# 法人の概要

公益・一般法人用

令和8年7月1日現在

| | | | |
|---|---|---|---|
| 法人名 | 公益社団法人姫路観光コンベンションビューロー | | |
| 所管 | 観光経済局　観光コンベンション室 | | |
| 資本金 | 0千円 | 市出資金 | 0千円　% |

**設立目的**

本ビューローは、姫路市における観光事業の振興とコンベンションの誘致、開催支援及び国内外の映画、テレビ等のロケーション撮影の誘致に積極的に取り組み、もって、地域経済の活性化、市民文化の向上を図り、国際観光都市・姫路の構築に寄与することを目的とする。

| 主な事業 | 事業名 | 令和７年度事業費 | 事業概要 |
|---|---|---|---|
| | 観光振興事業 | 448,627 千円 | 観光客の誘致、受入支援、広報、企画及び市民啓発に係る事業 |
| | ｺﾝﾍﾞﾝｼｮﾝ事業 | 73,030 千円 | ｺﾝﾍﾞﾝｼｮﾝ誘致、開催支援、広報、企画及び市民啓発に係る事業 |
| | ﾌｨﾙﾑｺﾐｯｼｮﾝ事業 | 13,134 千円 | ロケの誘致、支援、広報及び市民啓発に係る事業 |
| | 播産館事業 | 41,569 千円 | 伝統工芸品をはじめとする地場産品、お土産物の展示販売 |
| | | | |

| 役職員数(注1) | 常勤（注２） | （うち市派遣） | 非常勤 | 一般職 | （うち市派遣） | 嘱託・臨時等 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 役員数 | 2人 | （0人） | 31人 | 職員数 | 21人 | （6人） 23人 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 役員平均年齢(常勤) | 59.5 | 役員平均年収（常勤） | 0 千円 |
| 職員平均年齢（一般職） | 40.5歳 | 職員平均年収（一般職） | 5,267 千円 |

| 年度 | | Ｒ５ | Ｒ６ | Ｒ７ |
|---|---|---|---|---|
| 市からの財政支出等 | 委託料 | 61,224 千円 | 69,450 千円 | 62,193 千円 |
| | 補助金 | 222,295 千円 | 378,158 千円 | 383,835 千円 |
| | 貸付金（年度末残高） | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 |
| | 損失補償の対象となる借入金 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 |
| 財務概況 | 当期収入 | 479,136 千円 | 701,510 千円 | 755,746 千円 |
| | 当期支出 | 439,129 千円 | 670,933 千円 | 719,202 千円 |
| | 当期収支差額 | 40,006 千円 | 30,577 千円 | 36,544 千円 |
| | 次期繰越収支差額 | 16,580 千円 | ▲9,429 千円 | 5,967 千円 |
| | 総資産 | 341,969 千円 | 367,705 千円 | 398,097 千円 |
| | 総負債 | 233,026 千円 | 228,186 千円 | 222,033 千円 |
| | 当期正味財産増減額 | 40,006 千円 | 30,577 千円 | 36,544 千円 |
| | 正味財産合計 | 108,943 千円 | 139,519 千円 | 176,063 千円 |

| | |
|---|---|
| ホームページアドレス | https://www.himeji-kanko.jp/ |

注１：役員平均年齢、役員平均年収、職員平均年齢、職員平均年収には、市からの派遣職員は含まない。

注２：常勤役員には、週２９時間以上勤務する常勤的な非常勤役員を含む。

# Ⅱ　基本方針

## １．団体の前計画期間（令和３年度～令和７年度）における主な取組実績

・令和５年５月まで（計画上期）続いたコロナ禍において、バス・タクシー・宿泊・土産物など観光関連事業者に対し、国や市による緊急経済対策事業や補助金活用を支援し、事業継続を後押した。
・コロナ禍後（計画下期）においては、国や市が推し進める持続可能な観光地域づくりに係る補助金申請の伴走支援に取組み、観光地としての魅力向上に努めるとともに、観光需要回復に向けたプロモーションの強化に取組んだ。
・観光地域づくり法人（登録DMO）に登録される［令和3年11月］
・登録DMOとして、持続可能な観光地を構築するための戦略「観光地マスタープラン」を策定し、実行する「観光産業の担い手」として事業を展開した。
・主要事業について、PDCAサイクルによる事業評価（委員会や理事会での共有）を行い、業務の現状を把握し、課題を明確にし、改善策を実施していく仕組みを作った。また、組織全体での質の向上や業務効率の改善、個人のスキルアップに寄与させた。
・収益事業で得た自主財源も活用し公益目的事業の最大化に取り組んだ。
・新たに地域内での体験商品や受入れ型ツアーを扱うために地域限定旅行業登録を行い、将来的な収益源の確保に向けて取り組んだ。
・ホームページのリニューアルに合わせ多言語化を促進し、多様な観光客向けの情報発信の充実を図るとともに、地域事業者（市民含む）向けページを新たに構築し、観光データや事業の取り組みについて情報を共有する仕組みを作った。
・業務効率化のためグループウェア導入、クラウドによる文書管理、会員管理システムの刷新、労務管理におけるシステム導入など、法人としてDX化に取り組んだ。
・サステナブルツーリズム研修を受講し、プロパー職員4名がthe GSTC Professional Certificate in Sustainable Tourismを取得
・プロパー職員の採用により、専門性の高い職員の育成及び円滑な業務継承を図った。

## ２．団体を取り巻く環境・経営上の課題

［訪日外国人旅行者の増加と対応の高度化］
　訪日外国人旅行者は急速に増加しており、多言語対応の強化（デジタル情報、接客対応など）、文化・宗教・食習慣の多様性への配慮、データに基づくインバウンド戦略の立案、SNS・デジタルマーケティングの高度化など、地域全体の観光マネジメント能力が問われている。

［観光地域づくりの高度化とDMOの役割拡大］
　DMOは、単なる観光PR組織ではなく、地域の観光経済を支える「観光地域マネジメント組織」としての役割が期待されている。このため、観光資源の磨き上げ・商品造成・地域の稼ぐ力を高める仕組みづくり・観光客の満足度向上とリピーター創出・地域住民の理解と参画の促進・持続可能な観光（サステナブルツーリズム）の推進など、調整力・企画力・データ分析力など、総合的なマネジメント能力が求められている。

［環境変化への対応と組織運営の課題］
　観光を取り巻く環境は急速に変化しており、DMOには柔軟かつ持続可能な組織運営が求められる。このため、人材不足・専門人材の確保、財源の安定化（補助金依存からの脱却）、デジタル化への対応（DX推進）、地域住民との合意形成などの多様な課題に対応するDMO自身の組織力強化が不可欠であり、財源確保、内部統制、長期的な事業計画の策定など、経営的視点が求められる。

［会員の増強/自主財源の確保］
観光は宿泊、飲食、交通、体験事業者だけでなく、商店街、農林漁業者、文化団体、住民など、多様な関係者が関わる産業であり、DMOが地域の観光をマネジメントするためには、こうした多くの関係者と連携するすることが不可欠である。また、公益目的事業や法人運営には、収益事業の財源も充当していることから、安定的かつ多様な自主財源の確保が不可欠である。

## ３．団体の将来像（ビジョン）

姫路観光コンベンションビューロー「観光地マスタープラン」に以下のビジョンを定める。

【ビジョン】
城と共に生き、城と共に世界に輝き、観光で稼ぐ
～「観光を通して、にぎわいと感動にあふれるまち 姫路」の達成に向けて～

■地域に対するミッション
　「観光交流都市・姫路」を目指し、姫路城を中心とした観光まちづくりを行なうことで、観光を通じた経済活性化と雇用の創出を行ない、市民の生活を持続的に守る仕組みを作ります。

■DMOとしてのミッション
・姫路城にお越しになるお客様を理解します。
・姫路城を世界一知られ、訪問したくなるブランドに磨き上げます。
・観光で新しい事業創出・既存事業のすそ野を広げる人の挑戦を全力でお手伝いします。
・地域の事業者様のために稼ぐ仕組みを作ります。
・市内外とのパートナーシップを重視します。
・そのために観光のプロフェッショナルになることを永遠に目指します。

■DMOの経営方針
・姫路城にかかわるすべての方の幸せに貢献しよう。
・地域から愛され、必要とされる組織になろう。

## ４．団体の改革の方向性

・主要事業については、PDCAサイクルによる事業評価を行いながら、目標達成に向けた課題解決と施策の改善に繋げる。

・今後も急速に進展する、デジタル化やAI活用について、適切に対応し、業務の効率化と成果の最大化を図る。そのためにも、自主財源を確保したうえで、人材育成やデジタル分野への投資を戦略的に行う。業務効率化や生産性の向上により、間接経費等の削減に取り組む。

・当団体の構成は、行政からの派遣・民間派遣・プロパー職員・外部専門人材の登用など多岐に渡り、それぞれの企業文化は多種多様であり、また、人事異動による入替えも定期的にあることからも、公益法人として法令や社会通念に従い、事業活動を公正かつ適正に運営するためのコンプライアンス遵守を徹底させるとともに、安定した事業運営・継承と維持に努める。

# Ⅲ　健全経営に関する計画

計画期間：令和８年度～令和12年度

## １．経営目標

| | |
|---|---|
| 目標 | ビジョンに掲げる「観光を通して、にぎわいと感動にあふれるまち姫路～城と共に生き、城と共に世界に輝き、観光で稼ぐ～」の達成に向けた事業展開(=公益目的事業の最大化)<br>活動指針1：人を呼ぶ。消費を創る。<br>活動指針2：持続可能な組織づくり |
| 目標達成に向けた取組み | ・PDCAサイクルを確立させた事業の推進<br>・地域の事業者と共に地域が稼ぐ仕組み作り（地域に愛され、必要とされる組織づくり）<br>・ガバナンス及びコンプライアンスの強化による組織価値の向上と自律性強化<br>・実践力のある人材の育成、長期・安定的に事業を行うための自主財源の確保 |

## ２．数値目標・指標

| 健全経営に関する数値目標 | 令和６年度実績値 | 目標値（令和12年度） |
|---|---|---|
| 姫路市入込客数<br>（人を呼ぶ） | 9,232千人 | 10,000千人（8%増） |
| 一人あたりの消費額<br>（消費を創る） | 全体：20,260円<br>姫路城：36,562円 | 全体：23,000円（10%増）<br>姫路城：40,200円（10%増） |
| 会員数<br>（地域事業者との連携強化） | 442 | 600 |
| 収益事業の収支差額<br>（自主財源の確保） | 59,998千円 | 66,000千円（10%増） |

| 経営目標達成に向けた取組みの進捗状況やその成果を測るための指標 |
|---|
| 公益目的事業会計、収益等事業会計、法人会計ごとの経常増減額 |
| 登録DMOの必須KPI |

## ３．事業運営の最適化

| 事業の最適化及び事業実施方法の適正化 | |
|---|---|
| 観光振興事業 | 観光地域づくりの担い手として、多様な地域事業者との連携、周辺自治体やDMOとの広域連携により、「人を呼び・消費を創る」ための事業に取り組む。DMOの機能を活かし、データに基づくマーケティングによる戦略的なプロモーションやPDCAサイクルによる事業を展開する。 |
| コンベンション事業 | MICE（国際会議ほか）誘致戦略の強化、開催支援制度の最適化（受入体制の整備）、独自価値（ユニークベニュー）を柱に、MICE推進の実働主体として取り組む。 |
| フィルムコミッション事業 | 過去のロケ誘致・支援実績で築いた業界との関係を活かした国内外の誘致活動、ロケ地相談を起点とするワンストップ支援に取り組むことで、ロケ地としての地位確立とロケ地ツーリズムの推進に取り組む。 |
| 収益等事業 | 上記の公益目的事業の最大化・最適化、安定した法人運営のための財源を確保するため、収益の最大化とDX等の活用による業務効率化に取り組む。 |

| | |
|---|---|
| 利用者満足度の把握・改善 | HPやSNS等の解析、観光動向調査や主催事業・イベントにおいてアンケートを実施し、「人を呼ぶ。消費を創る」ためのマーケティングに繋げる。 |

## ４．団体運営体制の改善

### (1)執行体制

| | |
|---|---|
| 役員体制 | 原則として現状維持とするが、最適な役員体制（人数は候補者選定等）については、必要に応じて対応することとしたい。 |
| 職員体制 | 姫路市の所管課と協議しながら、公益目的事業の最適化・最大化を目指し、安定的かつ質の高い事業を推進する人材維持のため、適正な職員採用を行う。また、必要に応じアドバイザーなど専門的人材の活用も行う。 |
| リスク管理の強化 | 職員に法令順守の意識を高めるための研修及び指導を行うと共に、日常業務中のチェック体制を整え、随時適正に関係法令を熟知した事業を展開する。また、外部弁護士、外部税理士及び社会保険労務士等の活用によるリスク管理の強化に務める。 |

### (2)人事・給与

| | |
|---|---|
| 「外郭団体の職員の給与及びその他の勤務条件に関する指導基準」への適合 | 適合済み |
| 人材育成及び士気の高揚 | 職員一人ひとりの能力と職務意欲を高め、組織全体の課題対応力の向上に向けて階層別研修を実施するとともに研修プログラムの内容強化 充実を図り職員の能力開発と育成を図る。 |

### (3)財務管理

| | |
|---|---|
| 収入確保の取組み | 積極的な収益活動により、公益目的事業及び法人運営（組織力強化含む）を維持できる財源を確保する。また、国補助金や旅行業法に基づく旅行業を活かした着地型旅行商品の販売など、多様な財源確保に務める。 |
| 基本財産等の運用 | 安全かつ適正な預金管理（預金の分散化）を図るとともに、余剰資金の有効な運用方法を検討する。 |

## ５．財務状況の見通し（試算）

| 年度 | | | R8 | R9 | R10 | R11 | R12 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 財務 | 観光振興事業 | 当期収入 | 431,271千円 | 431,271千円 | 431,271千円 | 431,271千円 | 431,271千円 |
| | | 当期支出 | 449,321千円 | 449,321千円 | 449,321千円 | 449,321千円 | 449,321千円 |
| | | 当期収支差額 | △18,050千円 | △18,050千円 | △18,050千円 | △18,050千円 | △18,050千円 |
| | | 次期繰越収支差額 | 8,714千円 | 0千円 | 0千円 | 0千円 | 0千円 |
| | コンベンション事業 | 当期収入 | 65,717千円 | 65,717千円 | 65,717千円 | 65,717千円 | 65,717千円 |
| | | 当期支出 | 69,909千円 | 69,909千円 | 69,909千円 | 69,909千円 | 69,909千円 |
| | | 当期収支差額 | △4,192千円 | △4,192千円 | △4,192千円 | △4,192千円 | △4,192千円 |
| | | 次期繰越収支差額 | △1,196千円 | 0千円 | 0千円 | 0千円 | 0千円 |
| | ミッ | 当期収入 | 25,475千円 | 25,475千円 | 25,475千円 | 25,475千円 | 25,475千円 |

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 概況 | フィルムコミッション事業 | 当期支出 | 26,006千円 | 26,006千円 | 26,006千円 | 26,006千円 | 26,006千円 |
| | | 当期収支差額 | △531千円 | △531千円 | △531千円 | △531千円 | △531千円 |
| | | 次期繰越収支差額 | 4,013千円 | 0千円 | 0千円 | 0千円 | 0千円 |
| | 収益等事業 | 当期収入 | 170,806千円 | 171,106千円 | 171,306千円 | 171,506千円 | 171,706千円 |
| | | 当期支出 | 132,469千円 | 132,469千円 | 132,469千円 | 132,469千円 | 132,469千円 |
| | | 当期収支差額 | 38,337千円 | 38,637千円 | 38,837千円 | 39,037千円 | 39,237千円 |
| | | 次期繰越収支差額 | △21,661千円 | 300千円 | 200千円 | 200千円 | 200千円 |
| | 総資産 | | 367,856千円 | 368,008千円 | 368,160千円 | 368,312千円 | 368,464千円 |
| | 総負債 | | 228,185千円 | 228,185千円 | 228,185千円 | 228,185千円 | 228,185千円 |
| | 当期正味財産増減額 | | 152千円 | 152千円 | 152千円 | 152千円 | 152千円 |
| | 正味財産 | | 139,671千円 | 139,823千円 | 139,975千円 | 140,127千円 | 140,279千円 |